

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	生野区
学 校 名	大阪市立勝山小学校
学校長名	徳元 公美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・勝山小学校では、第6学年 30名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科、いずれの調査についても、平均正答率が大阪市平均・全国平均を上回る結果となった。各教科・領域別の結果を見ても、すべての項目で大阪市平均・全国平均を上回っている。

平均無回答率においては国語・理科においては0であり、算数においても大阪市平均・全国平均よりも低くなっている。

ここ数年来、「書く力」の育成に重点的に取り組んできた結果、書く力だけでなく、国語以外の分野においても、思考力や表現力の高まりが感じられる。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率は76%で、大阪市平均の65%や全国平均の66.8%を上回った。領域別の平均正答率でもすべての項目で市・全国を上回っているが、「(2)情報の扱い方に関する事項」は平均正答率が63.3%であり、全国平均の63.1%に僅差であった。

〔算数〕

平均正答率は66%で、大阪市平均の58%や全国平均の58%を上回った。領域別の平均正答率でもすべての項目で市・全国を上回っているが、「D データの活用」は平均正答率が62.7%であり、全国平均の62.6%に僅差であった。

〔理科〕

平均正答率は66%で、大阪市平均の55%や全国平均の57.1%を上回った。領域別の平均正答率でもすべての項目で市・全国を上回っている。

質問調査より

「将来の夢や目標を持っていますか」の質問項目では、最も肯定的な回答割合が64.5%（府:61.3%・全国:60.7%）であり、やや肯定的な「どちらかといえばあてば、あてはまる」の回答割合でも25.8%と（府:20.9%・全国:22.4%）将来の夢や目標持っている児童が多い傾向にあることが分かった。

調査対象の学年児童の特徴として、読書が好きな児童が多いことが挙げられる。また、5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する機会や、自分の考えをもとに学習をすすめていく機会が多いこと、自分と違う意見について考えることを楽しいと思う児童が多いことが分かった。

## 今後の取組(アクションプラン)

引き続き、国語科における「書く力」を軸とした児童の学力向上の取組を推進していき、児童の自ら考え、表現する力を伸ばしていく。また、情報やデータの取扱いや活用についても適切な判断や表現できるよう、指導法を工夫していく。

本校は今年度末で閉校を迎え、東桃谷小学校と統合する。春からは東勝山小学校としての新たなカリキュラムをスタートさせることとなる。これまでの勝山小学校での取組をしっかりと引き継ぎ、新しいカリキュラムに反映させていくことが今後の課題である。